

日用雑貨と酒類・飲料による業界横断型「共同物流」実証実験を実施 えびの市における中継拠点整備とモーダルシフトを通じ、南九州地方の物流安定化・災害対応力向上を図ります。

九州広域モーダルシフト・BCP推進協議会では、（公財）流通経済研究所が事務局として関係者間の調整・運営を担い、国土交通省「地域連携モーダルシフト等促進事業」を活用し、南九州地域における持続可能な物流体制の構築に向けた実証実験を実施します。

1. 背景と目的

南九州地域の物流は、関東・関西方面との長距離トラック輸送への依存度が高く、「物流の2024年問題」への対応が喫緊の課題となっています。加えて、災害時の輸送途絶リスクや環境負荷低減の観点からも、輸送構造の見直しが求められています。

本実証実験は、南九州地域と関西地域の物流網を対象に実施します。現在、本州から九州への日用雑貨輸送は、ほぼ全てが中国地方を経由する陸路に依存しており、災害時の寸断リスクや輸送効率の低下が課題となっています。

こうした背景を踏まえ、本事業では、神戸港—宮崎港間のフェリー輸送と、南九州地域の物流交通結節点である宮崎県えびの市の中継拠点活用を組み合わせることで、陸路一極集中からの脱却、災害時の冗長性確保、効率的な往復輸送を実現する新たな物流モデルの有効性を検証します。

2. 実証実験の概要

本実証実験は、日用雑貨および食品・飲料等を対象に、神戸港—宮崎港間のフェリー輸送による海運モーダルシフトと、宮崎県えびの市を中継拠点とした共同・往復輸送を組み合わせ、異なる荷主・貨物の組み合わせによる3つの輸送パターンで実施します。

関西方面から南九州への輸送はフェリーを活用し、えびの市の集出荷・中継拠点を經由して南九州各地へ配送します。復路では、南九州発の酒類・飲料等を積載し、大阪方面へ輸送することで、往復輸送を行います。

(1) 実施期間

- ・期間：2026年1月14日（水）～1月中

(2) 主な輸送ルート（中継拠点：宮崎県えびの市） ※宮崎港—神戸港間はフェリーを活用

- ・【往路】大阪 → 宮崎・鹿児島
- ・【復路】宮崎 → 大阪

(3) 検証の主な観点

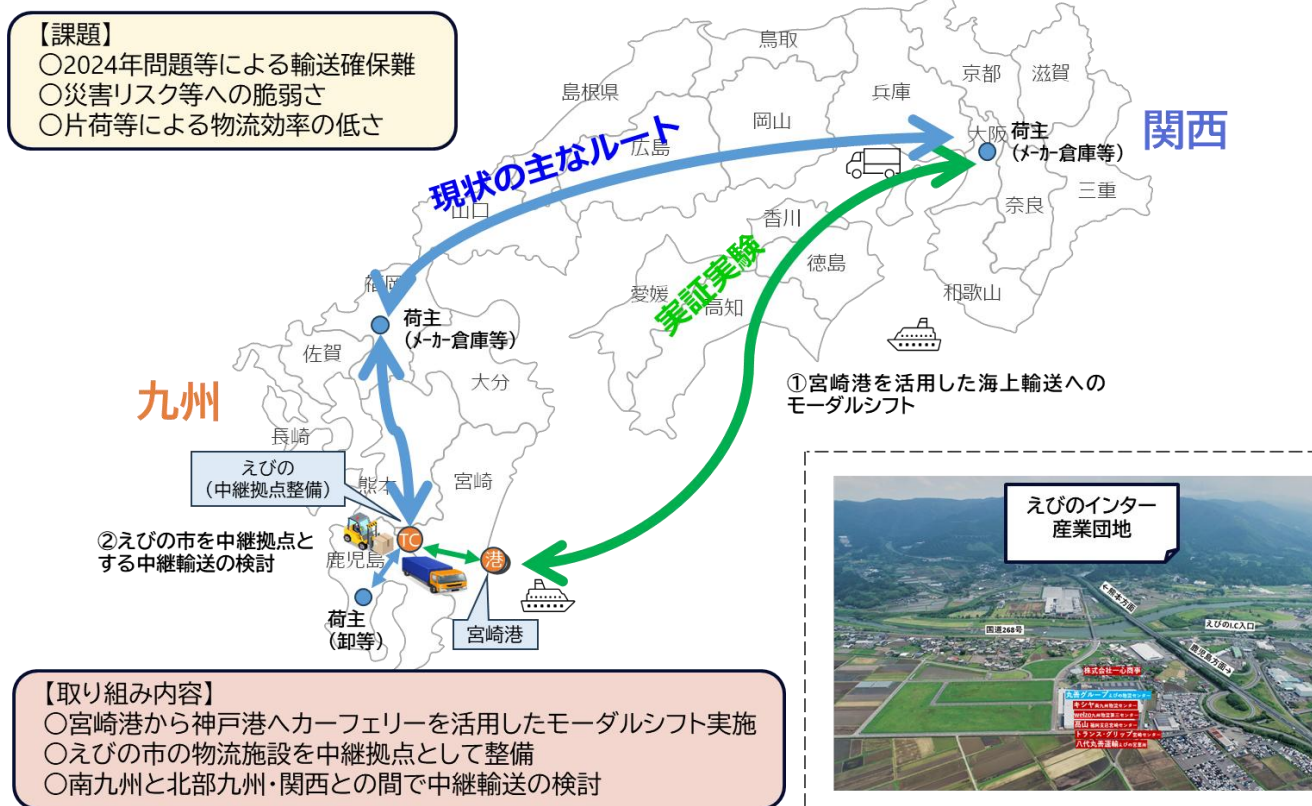
本実証実験では、これらの取組を通じて、長距離陸送からの転換による物流の2024年問題への対応効果、陸路一極集中からの脱却による災害時の輸送リスク分散（BCP強化）、および中継拠点活用と往復輸送による輸送効率化・片荷解消が実現可能かを検証します。

(4) 効果検証の方法

検証にあたっては、CO₂排出量削減による環境負荷低減、ドライバー拘束時間および休息確保状況による労働環境改善、積載率向上による輸送効率改善を主要なKPIとして設定し、実証結果をもとに、南九州地

域において持続可能で実装可能な物流モデルとしての有効性を評価します。

(5) 実証実験のイメージ (図)



4. 九州広域モーダルシフト・BCP 推進協議会

九州広域モーダルシフト・BCP 推進協議会は、九州地域における持続可能で強靱な物流ネットワークの構築を目的として設立された官民連携の協議体であり、宮崎県えびの市が参画しています。

南九州を含む広域的な物流課題に対し、モーダルシフトの推進、物流BCPの確保、災害時にも機能する代替輸送ルートの構築を柱として、荷主、物流事業者、関係機関等が連携し、実証実験や検討を通じた社会実装を目指した取組を進めています。

本実証実験は、同協議会の取組の一環として実施するものであり、将来的な横展開・定着化を見据えたモデル構築を目的としています。

(協議会概要・メンバー等の詳細は下記 URL 参照)

https://cxhub.jp/regional-modal-shift/pdf/miyazaki_ebinoshi.pdf

5. 今後について

本実証実験の成果を踏まえ、モーダルシフトや中継拠点を活用した「共同・往復輸送」の取組をさらに拡大していきます。業界の枠を超えた連携を深めることで、一過性の実験に終わらせることなく、「物流の2024年問題」や物流BCP、環境課題に対応する持続可能な物流モデルの社会実装を加速させてまいります。

○本実証実験に関するお問い合わせ先

九州広域モーダルシフト・BCP 推進協議会 事務局

担当：田代英男 (たしろひでお)

TEL 03-5213-4534

FAX 03-5276-5457

MAIL: hideo_tashiro@dei.or.jp